

令和3年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	34	学校名	静岡高等学校（全日制）	記載者	副校長 須藤 秀幸
------	----	-----	-------------	-----	-----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	毎日の学習及び生活のリズムを確立する	○「規則正しい生活をしている(生活リズムが確立している)」と自己評価する生徒70%以上 ○あいさつができると自己評価する生徒80%以上	B	B	成果目標に届かなかったものの生徒アンケートの結果は毎年向上しており、効果的な指導が継続されていると評価できる。 あいさつに関しては身だしなみ、マナーと併せて品格の根幹をなす要素なので、現状でよしとせず、先生方からも声を掛けてほしい。
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する	○授業を大切にす る生徒、主体的に 学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容が よくわかる」と自 己評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把 握した学力に基づ き授業改善に取り 組む教員90%以上	A	A	授業参観から授業を大切にしている生徒たちの姿が見えた。 生徒の好奇心を喚起し、勉強の面白みを伝えるスキルを発揮してほしい。最新の教育ツールを活用することも必要であろう。 ICTの活用で板書時間の節約など効率が上がることを感じた。 「主体的・対話的で深い学び」を大切に した授業改善が求められている。知 的好奇心を喚起する授業への生徒評 価が69%である点は今後の課題である。
ウ	低学年からの高い志の育成に努め、進路実現を図る	○進路行事実施後の進路意識の向上 ○第1志望（3年次当初）の大学に出願する生徒の割合70%	B	B	コロナ感染対策による進路行事への制約が多い中、実施方法を工夫して対応していると思う。 人間力を測る尺度が学力だけでないことを教えてほしい。職場体験などは参考になると思う。
エ	学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに社会に貢献する	○学校行事、部活動に積極的に取り組む生徒80%以上 ○1部活1社会貢献活動貢献活動100%	B	B	新型コロナウイルス感染症の制約はあるが、1部活1社会貢献活動は地域で何が求められているかを押さえた上で活動していただきたい。 88%の生徒が行事や部活動に積極 艇に取り組んでいるのは高く評価 できる。
オ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	○朝の読書週間 年2回実施 ○図書館開放 年 300日以上	B	B	新型コロナウイルス感染症の制約の中間年282日の図書館開館は評価できる。 先生がおすすめの本を紹介するなどのPR活動も今後考えてはどうか。

様式第5号

カ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ○学期1回以上の校内情報交換会 ○健康観察を通しての情報共有 ○学習環境の美化に努める生徒の育成、学期1回の安全点検 	A	A	<p>カウンセラーの活用、コンサルテーション、ケース会議の開催など機能的に対応し手厚いケアができたことは評価できる。</p> <p>生徒、保護者の「施設・設備、環境の整備」に関する評価が低いのが気に掛かる。</p> <p>感染対策への意識、具体的対策が高まっていることがこの2年間で見て取れた。</p> <p>ゴミの処理についてはもっと徹底していきたい。</p>
キ	職員の校内外の研修を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員による「スクール・ポリシー」の共有 ○「育てたい資質・能力」を意識した授業改善に向けた研修機会の充実 	A	A	<p>「授業改善」「スクール・ポリシー」「学習評価」をテーマとした校内研修会、延べ30回を超える授業力向上研修への参加は評価でき、策定されたスクール・ポリシーは秀逸である。</p>
ク	新学習指導要領に対応した教育課程への移行準備及び土曜オープンスクールの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 「カリキュラム・マネジメント」の視点からの教カリキュラム完成 ○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1000人以上 	A	A	<p>目標を超える1499人のオープンスクール参加者に授業内容、ICT活用の状況を実際に見てもらったのはよかった。学校HPの頻繁な更新も効果的な広報となった。</p> <p>新教育課程への準備、魅力の維持等による教員の過労が心配される。</p>
ケ	校内外のプログラムや外部人材の活用を通し、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○参加生徒、教職員の視野の拡大 ○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 	A	A	<p>エンパワーメントプログラム、PDAディベート大会、WWL高校生国際会議、データサイエンス講座等、生徒が多く参加して、大きな刺激を受け、視野が広がったことは評価できる。</p> <p>様々なプログラムが用意されており生徒の期待に十分応えられている。</p>
コ	「学校における働き方改革」に組織的に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ○行事、業務の見直しを行い、必要に応じて学校行事や業務を精選する ○月1回の産業医への勤務状況報告と指導助言の実施 	A	B	<p>働き方改革に取り組んだとは思いますが、社会全体の流れと比較するとまだまだ改革すべき点がある。</p> <p>正規の授業、授業準備、部活動や採点、書類業務等が変わらない中で労働時間だけ削れといってもなかなか難しいことがわかる。困難であっても継続的に取り組んでほしい。</p>